

世界会議レポート

執行部

監事 野呂京志

世界会議がチュニジアで開催されると聞いたとき、最初に思ったことは「アフリカ！？なんてこった、、、」でした。フライトを調べてみると早めでも 24 時間、金額を抑えようと思ったら 30 時間以上かかるということが分かり、これは大変なことになったと感じたことを覚えています。しかし、現地に来て世界会議に参加すると、そんなネガティブな考えは全て吹き飛んで行きました。今回の世界会議は、本年度の持続可能な国際開発委員会小幹事としての担い、そして次年度の三重ブロック会長としての参加義務が同時に発生しており、総会や日本青年会議所開催の事業を中心に、様々なファンクションに参加しながらお手伝いをさせていただきました。

総会では、次年度世界会議の正式な日程や、2028 年度から新しく使用される JCI のロゴなど、最新の情報を得ることができました。また親 LOM である名古屋青年会議所が 2027 年の世界会議開催地に審議可決される瞬間にも立ち合うことができました。名古屋青年会議所は世界会議の審議に向けて 100 名以上でチュニジアに来ており、そのスケールと力強さに胸をうたれました。私はもう卒業しておりますが、名古屋の世界会議にも必ず訪れようと思える瞬間でもありました。グローバルピースサミットや JCI アワードセレモニーでは、日本で活躍する対外、対内メンバーの活躍を感じることができて、大変刺激になりました。それぞれのファンクションで音楽が流れてダンスをしながらステージに上がってくる会頭などもおり、設営や人柄で日本との違いを感じることができました。各国の JCI 会頭をアテンドするという大役も頂戴しました、モンゴル会頭の Munkhbat Chinbat 君とはメッセージャーでやり取りをしており、二人での記念撮影にも快く応じてくれました。

また、せっかくアフリカまで来たので観光もしてみようということで、チュニジアで最も美しい街と言われているシディ・ブ・サイドにも訪れました。白と青を基調とした建物が建ち並び、カフェで地中海の景色を眺めながら色々な話をしました。メインストリートでお土産を買うこともでき、大いにチュニジアを感じることができました。

恐らく、今後の人生でチュニジアに行くことはもう無いと思います。だからこそ、大変貴重で今後の糧になる素晴らしい学びを多く得られることができました。現地の方々、海外の JCI メンバー、日本のメンバーとの交流はかけがえのないものです、間違いなくさらにメンバー間の絆が深まりました。この世界会議に参加して、JC をやっているのに国際の機会を掴まないのはもったいない！！とあらためて強く感じております。お金や時間、もちろん大変なことは沢山あります。しかしほんの少しでも参加できる可能性があるなら、四日市のみんなには全力で参加に向けた調整を行って欲しいと心から願っております。来年はフィリピン、再来年は名古屋と参加しやすい会場が続きます。ぜひ卒業までに世界会議へ参加して、JC で得られる素晴らしい国際の機会を掴んでいきましょう。



















